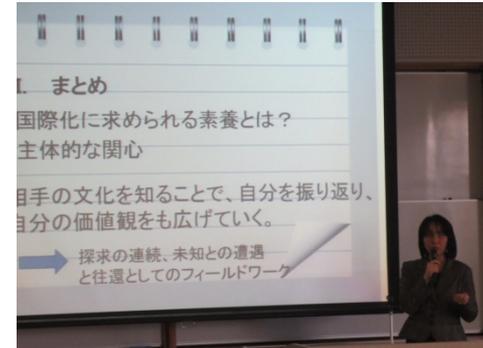
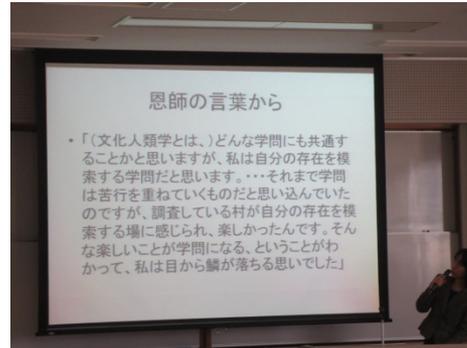
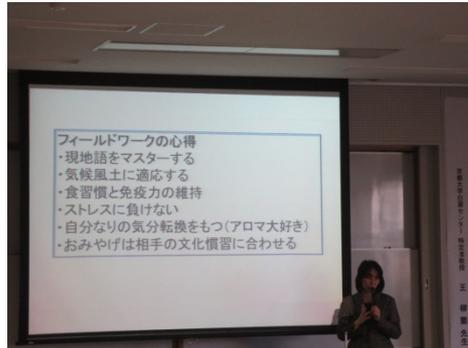


# 地域研究コンソーシアムのオンデマンド・セミナー・プログラム

京都大学 白眉センター 王柳蘭先生

タイトル「異文化が運ぶメッセージ―フィールドワークの挫折と学びを通して」

京都市立西京高等学校 実施日平成26年12月18日(木)



文化人類学がご専門の王柳蘭先生(京都大学白眉センター)をお招きし、高校一年生全員を対象に講演会を開催いたしました。講演タイトルは、「異文化が運ぶメッセージ―フィールドワークの挫折と学びを通して」です。高校一年生は、来年3月に実施する海外フィールドワークの準備をしている最中で、特に現地でのフィールドワークの計画をグループ単位で作り上げようとしています。

そんな高校一年生にとって、とても有意義な講演会になりました。王先生が特に強調されていたことは、主体性がフィールドワークの成果を決めるということです。例えば、相手の価値観を理解することで自分の価値観を広げることができ、感じ取れることが増えていきます。このことを実行する際、主体的に人とコミュニケーションをとらないと十分な成果を上げることはできません。自分の感性がどの方向のアンテナに広がっているかを常に考えることが主体性を高めることになります。

また、フィールドワークをする際には「郷に入れば郷に従う」ことが重要で、たくさん失敗する方が得るものが多いとお話されました。現地に行く前に多くのことを調べて仮説を立てることになるが、フィールドワークで大切なことは現地調査を実施することでその仮説をつぶして新たな考えを生み出すこと、つまり探究の連続、未知との遭遇を楽しみながら自分の価値観を広げることが大切であるとまとめていただきました。